

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギベと病一次感染株の初確認について

県内の早生タマネギにおいて、べと病の一次感染株（越年罹病株）の初発生が確認されました。現在発生が無いほ場でも、今後発生する可能性があります。

については、下記事項を参考に圃場の見回りと罹病株の抜き取りを徹底するよう、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況

(1) 1 月 9 ~ 10 日に農業技術防除センターが実施した定期調査（マルチ 14 ほ場、無マルチ 14 ほ場）において、マルチ栽培 2 ほ場で、一次感染株の発生をわずかに認めた（表 1、写真 1, 2）。なお無マルチ栽培では、発生を認めなかった（表 2）。

同調査による近年の初発生確認日（表 3）と比較すると、本年は発生がやや早い。

(2) なお、1 月 8 日に杵島農業改良普及センターが、管内の早生タマネギほ場（11 月中旬移植、マルチ栽培、トンネルなし、品種：貴錦）においても、一次感染株の発生を確認している。

表 1 マルチ栽培タマネギほ場でのべと病の発生状況(2020 年 1 月 9~10 日, 2000 株調査)

調査地点	白石町									鹿島市			唐津市		マルチ栽培平均 (14ほ場)	
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	発生 株率(%)	発生 圃場率(%)
圃場	0	0	0.05	0	0	0	0	0	0	0	0	0.05	0	0	0.007	14.3
発生株率(%)																

表 2 無マルチ栽培タマネギほ場でのべと病の発生状況(2020 年 1 月 9~10 日, 2000 株調査)

調査地点	白石町									鹿島市			唐津市		無マルチ栽培平均 (14ほ場)	
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	発生 株率(%)	発生 圃場率(%)
圃場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発生株率(%)																



写真1 早生タマネギに発生した一次感染株
(現地ほ場、2020年1月9日撮影)



写真2 早生タマネギに発生した一次感染株
(現地ほ場、2020年1月9日撮影)

表3 農業技術防除センターの定期調査におけるべと病の初発生確認日

調査年	初発確認日	調査圃場数	
		マルチ	無マルチ
2016年(多発生)	1月5日	12	8
2017年	1月24日	11	9
2018年	2月5日	10	10
2019年	2月5日	14	11
2020年	1月9日	14	14

注) いずれも、12月下旬から約10~14日間隔で、各ほ場2000株調査を実施。

2. 気象

(1)2019年12月の佐賀市(佐賀地方気象台)の降雨日数は18日と多く、本病の多発生の条件であったことから、一次伝染が助長されたと考えられる。

以上のことから、植え付け時期が早い極早生及び早生ほ場や、前作で多発生したほ場等では、今後、一次感染株が発生すると考えられる。

また、上記以外の中晩生ほ場では、現在発生はないが、今後、例年より早く発生する可能性がある。

3. 防除対策

(1)ほ場の見回りを行い、一次感染株を見つけたら直ちに抜き取り処分する。厳寒期における一次感染株の発生は少ないため、観察は丁寧に行う。

(2)抜き取った株はほ場周辺に放置せず、すぐにビニル袋等に入れ、市町が行う焼却処理に搬出するなど、適切に処分する。

(3)分生胞子が見られても、厳寒期は本病の伝染は起こりにくい。そのため、薬剤防除は主要な伝染が始まる2月下旬から計画的に実施する。

一次感染株の特徴

下表のように株の姿や葉色に変化が認められ、分生胞子の形成が認められる。

病徴	具体的な症状
株の姿	周囲の株と比較して、草丈が低くなる。葉が湾曲、開帳する(写真3)。
葉色	葉色が薄くなり、黄化する。光沢がなくなる(写真3)。葉が部分的に黄化することもある(写真4)。
分生胞子	条件が整った場合、葉上に肉眼で確認できる白色から灰色の分生胞子がビロード状に形成される(写真5)。



写真3 株の生育不良、葉の湾曲、葉色が薄く光沢がない症状

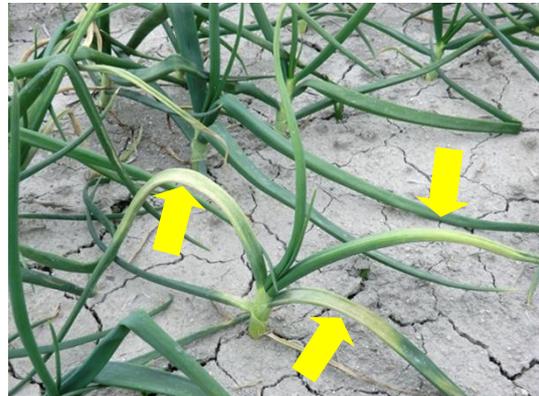


写真4 葉の部分的な黄化



写真5 葉上に形成された分生胞子

連絡先：佐賀県農業技術防除センター
病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153